

進研ゼミ 高校講座

国語 3

合格への 100 題ライブ

体験版

[古文]知識・読解講義

助詞・副詞／主張やテーマのある文章の読み方

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

H 20 東北大 改訂

俗説Aに云ふ。中ごろ、ある人の家来、罪科ありてきらるべきにきはまりしに、彼かのもの出奔して、近辺にかくれ居たり。主君、科人とがにんが子、近習きんじゆにつとめけるを、ひそかにちかづけ、「汝をがが父、駆け落ちしてゆきがたしれず。汝にいとまをとりするあひだ、尋ね出して来るべし。」と申しわたされければ、「かしまり候。」とて、父がかくれ居たる所にゆき、「主君かやうかやうの仰せによつて、御行方をたづね候。このうへはいつくへか落ちゆき給ふべき。すみやかに切腹まします。」とすすめて腹をきらせ、首を主君のかたにおくり、その身は即時にもとどり切て出家しけり。そのころ、彼の子がふるまひ、忠孝ふたつながらまつたしと感じけるといふ。

今B按あんずるに、主人、出奔のものをころさんとおもはば、別人をして尋ねしむべし。しかるに罪人が子に命ずるをもつて思ふに、彼の科人、父祖の旧功あるか、またはその身の勤勞あるによつて、かたがたいかにもしてたすけたく思へども、家の法度はつとを背けるをそのままさしおかんやうもなければ、とかくともだすうちに、駆け落ちして近辺にかくれ居るときこゆ。家老・役人等ら、聞きつけて主人の耳にいるるときは、ころさではかなはざるゆゑ、その子に、「いとまをとりするあひだ、かくれ居たるをたづねよ。」

と主人のいひしは、告げしらせてしのばせよ、との下心こころなるべし。たとひ誠まこところせとのことなりとも、
など父をつれていづくへもかくさざるや。しかるを、なさけなく父に腹すすめ、首を切りしこと、無道
至極しごくせり。その罪つみいたつてふかし。「むかし、舜しゆんの世をたち給ふ時にあたりて、瞽叟こそう罪を犯さんには
いかが。」といひしに、ある人論じて、「舜は天子の位をすてて、瞽叟を負ひてのがれ給はん。」といへり。
これを考へて、彼のものが不孝をしるべし。

(井沢蟠竜『広益俗説弁』による)

- (注) ○近習——主君の側そば近く仕える者。 ○もとどり——髪を頭の上で束ねたもの。 ○舜——中国古代
の伝説上の帝王。 ○瞽叟——帝舜の父。

▼「エピソードの内容」を確認するワークに取り組もう

(ゼミオリジナル)

□ **ワーク1** 波線部A「俗説」の中心人物は誰か。問題文中に、最初に出てくる形で抜き出して答えよう。

□ **ワーク2** 波線部B「今按ずる」の主語は誰かを答えよう。

□ **ワーク3** 波線部C「これを考へて、彼のものが不孝をしるべし」について、次の問いに答えよう。

(1) 「これ」の指示する内容を問題文中から探し、最初と最後の五字をそれぞれ抜き出そう(句読点なども一字として数える)。

(2) (1)の中で、「彼のもの」と対比されているのは誰かを答えよう。

▼入試形式の設問に取り組もう

□ 問一 傍線の箇所(ア)「彼の子がふるまひ、忠孝ふたつながらまつたし」とあるが、これは「彼の子」のどのような行為に対する称賛か、本文の内容に即して、五十字以内で説明せよ。

□ 問二 傍線の箇所(イ)「下心」とあるが、筆者が主君の「下心」を推測するために根拠としたのはどういうことか、四十五字以内で説明せよ。

□ 問三 傍線の箇所(ウ)「その罪いたつてふかし」とあるが、筆者はなぜそのように考えるのか、三十字以内で説明せよ。